

日本語英国教会ニュースレター

第86号 2017年4月発行

復活 と 信仰

司祭 竹内謙太郎

幾つかの前提からキリスト教について改めて考えてみたいと思います。キリスト教会には独特の暦があります。教会暦と申します。実は現在私たちが用いている西暦という暦がそれです。今年は2017年ですが、これは主イエス・キリストの生誕2017年という意味です。しかし、年号だけでなく、特にキリスト教会はすべての時間を主イエス・キリストのご生涯との関係において理解しようとしています。その関係を最も端的に示しているのがイースター、復活日の設定でしょう。キリスト教会は古くから、復活日の期日を主イエス・キリストの処刑とその3日後の復活が実現した事実を当時のユダヤ暦を基本として現在の暦の設定に当てはめて、復活日は3月21日以後の満月の後の最初の主日（日曜日）である、としています。そこからさかのぼって主イエス・キリストの処刑の日、エルサレム入城などのイエス様の事績を教会暦に記録して、主イエス・キリストの誕生（クリスマス）とその準備の季節（降臨節 Advent）にいたります。。そしてその降臨節の最初の主日（日曜日）を教会暦の年間の最初の日（教会暦の元旦にあたる）と定めております。このような教会暦における祝日の決め方において復活日は毎年異なる日となりますので、移動祝日とも呼んでおります。

このように主イエス・キリストのご生涯の出来事に基づいて定める教会暦はまさに、主イエス・キリストのご生涯の歩みをそのままたどるという大切な意味、つまり、私たちに対して教会は主イエス・キリストと共にこの世界における日々を過ごしなさいと、教えているのです。主イエス・キリストのご生涯とその行動を共にしなさいという意味でもあります。そしてその中心に復活という事実があるのです。

私たちはそこで主イエス・キリスト誕生の記念であるクリスマスの準備の期間である降臨節の最初の主日から四つの日曜日を経てクリスマスを迎えますが、ここから私たちが主イエス・キリストと共にこの世界を歩む旅が始まります。ここで申します主イエス・キリストと共に歩むということをもって、私たちは信仰があると言えます。信仰とは、何かを本当だ、という思いを持つということではなく、私たちが信仰する事、或いは人、と共に、生きようとする事を意味します。主イエス・キリストを信じるということは主イエス・キリストと共に生きよう、ともに歩こう、主イエス・キリストとともに同じにしようということです。ですから もし私たちが主イエス・キリストと同じ生き方ができたら、なんとすばらしいことだろうと願うのです。初代のクリスチャンたちが迫害にあった時、すすんで十字架刑を望んだと伝えられていますが、それは明らかに主イエス・キリストと同じ死に方ができたらと願う彼らの思いを示しています。初代のクリスチャンたちは無事に信仰生活を全うできることを望んでおりましたが、同時に、処刑されるのであれば十字架刑を望んだのでした。究極的な主イエス・キリストと共に、の在り方でしたから。

そのように主イエス・キリストと共に、という信仰の在り方は同時に、主イエス・キリストの死と共にすると共に、主イエス・キリストの復活を共にするという事でもありました。主イエス・キリストが「私を信じる者は死なない、死んでも生きる」と言われたことは、「私と共にいる者は私と共に生きる」という事なのです。

私たちは私たちの復活を信じます。それは私たちは死なない、私たちの命に限りはない、という意味でもあります。命には限りはありません。何故なら、私たちが得ている命とは、私たちが一人一人この世に送り出されてきた時、私たちを生かす父である神の命のかけらをいただいてくるのです。私たちはですから父から命を分け与えられているのです。基がなければ私たちの命には何の意味もありせん、基である父なる神から分けていただくのです。その命には神が永遠であるように、永遠なのです。絶えることはありません。絶えることはないからこそ、その表れとしての復活という事実があるのです。主イエス・キリストはその重大な事実をご自分のご生涯

によって私たちに示してくださいました。それは「お前たちも私と同様に復活するのだ」というメッセージだったのです。

私たちが主イエス・キリストと共に生きようとするのが、主イエス・キリストと共に生涯の在り方を共にさせていただけるのです。クリスチャンになるということはそういうことです。主イエス・キリストと共に歩こうとすることです。現代は主イエス・キリストの生きられた時代とは大きく変わっていますが、人間の思い、愛、憎しみ、などには何の変化もありません。聖書に示されたような、日々との生き方は現代でも全く同じです。ですから私たちは主イエス・キリストの生き方を共にできるのではないのでしょうか。キリスト教の信仰とは、主イエス・キリストと共に生きようとする事なのだ、どうか、この大切な私たち自身の生き方を振り返ってください。

□□□□□□ 前回の報告 □□□□□□

日本語英国教会 St.Martin's

ロンドン教区 St Michael's Camden Town 教会のトム神父がご多忙の中、私達の為に時間を割いて、ご家族と共に参加され、日本語の聖餐式をしてくださいました。礼拝後、トム神父と園田先生を囲んで歓談の時を共にすることができましたこと、感謝です。

礼拝の中では、トム神父の依頼によって、ヨハネによる福音書4章5節以下にある、サマリヤの女性とイエス様の出会いからの学びを分かち合いましたので、以下要約を記します。

大切なメッセージが幾つか込められ、内容が大変濃い物語であり、イエス様の救いの力をすばらしく描いた一つの例です。

当時ユダヤ人とサマリヤ人の間の長年にわたる争いによって築き上げられた風習がありましたが、イエス様がサマリヤ人の女性に声をかけることによって、そのバリアの壁を壊されました。

このサマリヤ人の女性は過去の生きざまによって、周囲からレッテルがはられ、まともな生活などは、望んでも持てないと思いながら生活をしていたと推察されます。そうした中、イエス様が現れ、彼女自身が今まで縛られていた過去の過ちから解き放たれるように

してくれました。さらに、彼女の言葉によって、その町の多くのサマリア人がイエス様を信じたと書かれています。

イエス様が彼らと二日間滞在された後、4章42節「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。わたしたちは自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かったからです。だからわたしたちはこの方を信じるのです。」

信じるのは、私達のそれぞれの決断 すなわち、信じることを選びましたということです。信仰が与えられたという言い方もありますが、どの方向を向いて生活するのか、何を信じて生きるのか、選ぶのは、私達それぞれです。

イエス様は、古い風習を破り、最も弱い立場にあったサマリア人の女性に寄り添い、彼女にとって正に新しい道を切り開いてくれました。サマリアの女性に示されたイエス様の行いを通して、神様は私達すべてを愛されているを心にとめながら、イースターに向かう季節を過ごしたいと思います。

ジョンソン友紀

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □



昨年4月14日から16日にかけて九州熊本と大分を中心として発生した地震から、一年を迎えますが、未だに地震直後からほとんど変わらない状態にある所もあると聞いています。

地震によって亡くなれた方々のご家族、友人に主の慰めが与えられますように、また被災によって心身的な重荷を負われている方々に主の癒しと励ましそして希望が与えられますように、祈りましょう。

どうぞ、被災者の方々と支援活動をされている方々、特に日本聖公会九州教区の九州地震支援室の働きを覚えて、主の導きそしてみ恵みが与えられますよう、引き続きお祈りください。

日本聖公会の九州地震支援室の活動報告から

3月30日（木）活動報告 報告者 黒阪 帆
スタッフ2名 ボランティア8名

今日は益城町で、二件の仕事がありました。

まず、平田区の仮設住宅の近くの農家を訪問し、5月に予定されている家屋の解体に向けて家財道具の選別作業を手伝わせていただきました。家の中にはまだ片付けが完了しておらず、まだまだ物が散乱しています。部屋の片付けのみならず、本業である農業も再開せねばならないご主人の苦勞を感じ、会話の様子からも疲れが滲み出ているように思えました。今日の作業は、依頼人方に必要な物を選別してもらい、私たちが荷物を運ぶという流れでしたが、床に散らばるすべての物品一つ一つに思い入れがあり、寂しさを憶えているのだろうと感じました。家の主人はリフォーム直後に震災が発生したという話を残念そうにしてくださり、この家に対する思い入れの強さが伺えました。家族から帰り際に、「あんたたちがいて良かった。助けてください。」という言葉は忘れることができません。

もう一方の仕事では、母屋の倒壊の程度が激しく、解体前に再利用できる木材、窓のサッシ等の回収、家屋に隣接する庭木の移動を頼まれました。そこは娘さんが生活していた建物で、現在はご家族と仮設住宅で生活を送っているそうです。作業がひと段落つき

「一年経って、ようやくこれ。頑張れ熊本と言われてもなかなか頑張れませんわ。」とのつぶやき。仮設住宅の生活も容易なものではなく、日常生活のストレス、先に進まないもどかしさが疲勞を助長しているように思われます。

震災が人々に与えた影響は根が深く、日常を取り戻せない人々がまだ多く存在します。4月からは日程を集中させて活動することにしますが、この活動を通じて得られた繋がり、また、その他の苦しんでいる人たちに寄り添いながら、これらを大事にできる支援室であり続けたいです。

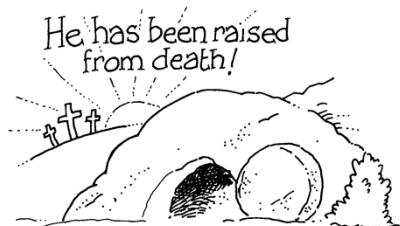
日本聖公会の九州地震支援室の働きは以下のサイトでご覧になれます。 <https://www.facebook.com/koritsusasenai/>

□ □ 日本語英国教会発足 10 周年記念礼拝 □ □

5 月 21 日 (日) 午後 3 時

聖餐式：ウィリアムズ郁子司祭

上記の特別礼拝の詳細は、追ってお知らせいたしますが、特別なお祝いの日となりますので、今からご予約に入れてください。



ご復活の喜びがいつも私たちの心のうちにありますよう

日本語英国教会 **West Acton**

4 月 26 日 (日曜日)

午後 3 時から 5 時まで

子供たちと共に聖書を学ぶ

夕べの祈り

園田先生を囲んでのティータイム

場所：St. Martin's,

Hale Gardens, LONDON W3 9SG

礼拝後にはティータイムをもちます。

皆様、お誘いあわせの上いらしてください。

Commissioned Lay Minister : ジョンソン友紀

120 Carthorse Lane REDDITCH B97 6SZ

携帯 07503 893880

yukifunakawa@btinternet.com

ブログ <http://blog.goo.ne.jp/jacuk>

<http://www.geocities.jp/eikokukyokai07/>